

② 心 身 の 健 康		<p>向上を目指す姿も見られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力テストの結果については、昨年度までとの総合得点の比較が可能な児童生徒で検証した。小学部2～4年生で13人中12人が平均で5点、小学5・6年生で14人中14人が平均5点アップしていた。中学部では17人中10人が平均8点のアップ、高等部は20人中16人が平均4点アップしていた。 ・体力テストの結果を中高等部の生徒がまとめ、掲示や発表をしたことで、自分たちの体力のバランスの悪さや、全国平均と比べ記録が低いことなどに気付き、体育の授業や部活動で教え合いながら、改善が必要な部分について積極的にトレーニングする姿が見られるようになった。
	各部の実態に応じて目標を設定し、継続して取り組むことで体力の向上を目指す。	<p>○学校全体の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚部では、朝や給食後に体を動かす遊び（ケンケンパ、的あて、大玉転がし、サーキット、ドッジボール、大縄跳び、しっぽ取りなど）を意識的に取り入れた。体育科教員によるコーディネーション運動の紹介も行った。 ・小学部では、出校日での児童会主催の運動遊びを実施した。また、年2回の体力づくり月間を設定した。5月は体育大会の種目練習、11月は縄跳びによる体力づくりの取組を実施した。中学年では、9月からラダーを使った運動を継続して行っている。 ・中・高等部では、体育、保健体育の授業で毎時間トレーニングの時間を設定して実施した。体力テストの結果をもとに、弱い部分を補強できるよう、内容や回数を考えるようにした。また、保健委員会が中心となって体力向上のために役立つ情報を調べて発表したり掲示したりした。 <p>○主な変容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚部：朝や給食後の遊びを通して、体の動かし方やボールの扱い方を理解できるようになり、体を動かすことも楽しめるようになった。コーディネーション運動の体験では、いつもと違った雰囲気の中で、寝た姿勢から立つ姿勢までのいろいろな動きを体験することができた。 ・小学部：12月上旬に縄跳びの取組に対して表彰を行った。その際に、冬休みや3学期も続けてチャレンジカードの項目に取り組んでもよいと伝えたところ、冬休みや3学期の20分放課に自主的に縄跳びに取り組む姿が見られた。中学年の取組では、スピードも遅くふらついていた児童が、体幹がしっかりしスピードも速くなるなど運動能力の向上が見られている。 ・中・高等部：体育の授業での補強運動では、しっかりと負荷がかかるよう正しい姿勢で取り組むことを意識したり、回数を自主的に増やしたり、新たな運動を自分で考えて取り組んだりするなど、積極的に体力の向上に努める生徒が増えた。持久走などの授業でも力を抜くことなく記録の向上を目指し目標を設定できるようになり、授業を行うごとに記録が伸びる生徒も多かった。 ・来年度の体力テストの結果も掲示し、継続して体力向上に向けて取り組んでいきたい。
	運動に関わる各種行事や部活動の記録（結果）などを学校全体に発信していくことで、運動に対する意欲や関心の向上を図る。	<p>○学校全体の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員室に結果や写真などを掲示するのみにとどまり、積極的な発信を行うことができなかった。 <p>○主な変容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中・高等部の部活動に興味をもっている幼児児童、保護者はいても、意欲や関心が向上するまでには至らなかった。学校評価としての取組は終わるものの、今後積極的に発信していけるよう努めたい。
○アンケートの結果（4段階の回答のうち、上位2段階の合計） 児童アンケート…83%、生徒アンケート…86%、 職員アンケート…86%、保護者アンケート…89%		平均86.7%
③ い じ め の 防 止	互いに認め合える人間関係をつくり、集団の一員としての自覚と自信を身に付けられるようにする。	<p>○各部の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校長から部の実態に合った講話を聞く機会をもった。いじめを受ける側の気持ちを考えることが大切だと分かりやすく話され、子どもたちが自分自身を振り返り、よりよい行動を考える機会となった。また、自分が大切にされていると実感できたよい機会となった。
	「心のアンケート」を実施し、日々の子どもの気持ちを把握する。	<ul style="list-style-type: none"> ・日々保護者・学校との連携を密にし、共通理解を図りながら指導してきた。「心のアンケート」の結果に大きないじめの問題につながるような回答はみられなかった。
総合評価	本年度、重点目標として3項目を掲げ、全項目について、具体的方策を挙げ全校で取り組んだ。学校評価委員会で校長から学校評価の重点目標と評価方法についての具体的指示を受け、重点目標を達成するよう方策を	

	<p>立て校内の組織や各教員が活動を展開した。児童生徒、職員、保護者を対象にした三つのアンケートの結果と併せて、各項目における実際の取組を顧みて、以下のように結果と課題を明らかにした。</p> <p><結果> 上記のように各項目において内容の濃い取組ができた。その成果として幼児児童生徒、保護者の声やアンケートの結果に反映されている。以上を鑑みて、本校では<u>今年度の各項目についておおむね達成できたと評価する。</u></p> <p><課題> ○学習指導 今年度の取組により、聴覚障害教育に携わる教員として授業力を向上させるために必要なことを学び続けるという意識付けになったと思われるが、日々の授業において即学力向上につながらないという現状がある。今後も継続して意図的な言語活動の方法や自己学習できる力の付け方など、基礎的なことを学んだ上で授業参観等を通して自己研鑽していくことが重要である。来年度は新しいチェックシートや定期的に行う校内研修等を活用して、さらに専門性の向上に努める。</p> ○心身の健康 生徒が体力テストの結果をまとめ、掲示や発表をしたが、時期がかなり遅くなってしまった。また、掲示したことを全職員に告知していなかったため、掲示内容に気付いていない職員がいた。生徒の活動とは別に終了後すぐに結果をまとめ、職員のみでも早く閲覧できるようにし、日頃の指導に生かせるようにすべきであった。また、授業等で体力テストを行い、年度内に体力の現状について確認ができるとよかった。今年度の反省をもとに、今後も体力向上に向けての取組を継続していく。 ○いじめの防止 「愛知県のおいじめ防止基本方針」の改定内容の周知が不十分であったので、次年度早々に研修会を設ける。引き続き幼児児童生徒一人一人に、自分が大切にされている実感をもてる指導・支援を行う。また、信頼関係の構築に引き続き努め、子どもたちがすぐ相談できる関係・環境を作り、気になることがあれば、支援や配慮を迅速かつ組織的に対応する。
--	--

学校関係者評価結果等

<p>学校関係者評価を実施した主な評価項目</p>	<p>授業の専門性を高め、幼児児童生徒の発達に応じた効果的な支援・指導を行う。</p>
<p>自己評価結果について</p>	<p>・聾学校で授業に携わる者としての専門性を向上させるために、学校全体及び各部の実態に合わせた取組を行うことができた。アンケートでも一定の成果が得られたため、自己評価を承認する。</p>
<p>今後の改善方策について</p>	<p>・授業力を高めるために、聴覚障害教育に関する知識を積み重ね、チェックシートや定期的な校内研修等を活用しながら幼児児童生徒の支援・指導を行う。</p>
<p>その他 (学校関係者評価委員から出された主な意見、要望)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校内参観では、音楽できらきら星の曲に取り組んでいる場面を見た。昔と教育に関する方針が変わっていて驚いた。聞こえなくてもリズムを感じるといった指導をされているのだと思った。 ・昔の聾学校は英語の授業もなかったので驚いた。口話教育と洋裁の技術を教わったくらいだったので、羨ましくも悔しくも思う。健常者の教育に引けをとらないと思う。今回の授業を見て感動した。 ・小さい子がどうして意思疎通ができるのかと思ったが、指導者とのやりとりを保護者に見てもらって家庭でも交流しているからだと思った。 ・教科書も通常の学校と同じものを使って工夫しているのに感心した。細部にわたってその子どもに合った教育をしている様子が見られた。 ・図書室前の掲示板で、「伝えようカード」の「かさこじぞう」の感想文を読んだ。難しい内容だが、読み聞かせの手話通訳がついているから理解できたのだろう。短くても自分で思ったことが書けている。そうした力が伸びていると思った。 ・寄宿舎も良かった。 ・研究授業は随分前から実施していると感じていた。小さい子でまだまだ力が足りないと感じる部分もあるが、このおかげで力が付く。もどかしいと感じる先生もいるので、続けてほしい。 ・先生が、それぞれの子どもに合わせた授業をしているので感謝している。 ・図書室は遠いので近くに本があつていいと思った。(きらきら文庫)

	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒を育てる先生の力は大きく、一般社会に出ても健聴者に引けをとらない人を育てていると思った。 ・昨年の体育大会を見たときに、子どもたちみんなが同じように参加できていると思った。指導者は大変だろうけど、重い障害の人にも指導している。今はみんなが平等に参加できていて、うれしく思った。 ・給食室も見たが、器も昔と違ってきれいな容器で変わったと思う。昔より美味しいだろうし、給食のおかげで体力もついてよいと思う。 ・遊び時間をたくさんつくるのはよい。遊びの中で力がついてくる。昔した川遊びでは、どんなふう に魚を捕るか考えて、くつで捕るなど工夫をしたがそれも勉強だと思う。他にもお寺で遊んだとき には、寺の様子から誰かが亡くなったことを知り、戦争で誰かの息子がなくなったという話を聞く こともあった。遊びからも学ぶことが多いと思う。 ・給食も大切だと思う。私の子どもは、こだわりがあってお肉など同じものしか食べない。 ・小学部は遊ぶ時間が少ないと思うので、もう少し時間をつくってあげたい。地元の小学校では5分 の時間でも遊んで戻ってくる。数分間でも遊んで帰ってこられるような時間を増やしてあげたい。 ・小学部の放課が短く感じた。 ・子どもは、家で嫌いな食べ物が出ると残してしまうが、学校なら食べる。 ・最近、家で腕立て伏せをしていたが、体力テストに向けて学校のこのような取組があったからだ と知った。 ・スポーツ、卓球も成績がよいと聞いた。グラウンドゴルフを学校でも活用できるなら、時間を見つ けるので、よければ活用してほしい。
<p>学校関係者評価委員会の構成及び評価時期</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・構成………学校評議員 5名 ・評価時期… 2月13日に実施